開講４０周年記念

宮崎大学医学部内科学講座
神経呼吸内分泌代謝学分野

（旧　宮崎医科大学第３内科）

４０年のあゆみ

2017 年 4 月 29 日

宮崎大学医学部

内科学講座

神経呼吸内分泌代謝学分野

宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野沿革

（旧宮崎医科大学第３内科）

宮崎医科大学第 3 内科講座が昭和 52 年に開講して 40 年になる。

初代荒木淑郎教授のもと、神経内科学と内分泌・代謝学を専門とする講座として発足し、昭和 60 年に第二代教授の松倉　茂先生が就任された後、平成 2 年に呼吸器病学を専門分野に加え現在の講座の体制が整った。第三代の現中里雅光教授のもとで、平成 15 年に宮崎大学と統合し、宮崎医科大学から宮崎大学医学部へと変わり、大学は国立大学法人となった。その後内科学第 3 講座から、内科学講座神経呼吸内分泌代謝学分野へ呼称が変更となった。

開講当初の礎を築いた諸先輩方の尽力とその後多くの人々の力が当教室の発展の源となってきた。当教室の受け継がれてきた伝統と医師としての精神を再度認識していただくためにも、ここに 40 年の歴史の概略を列挙する。

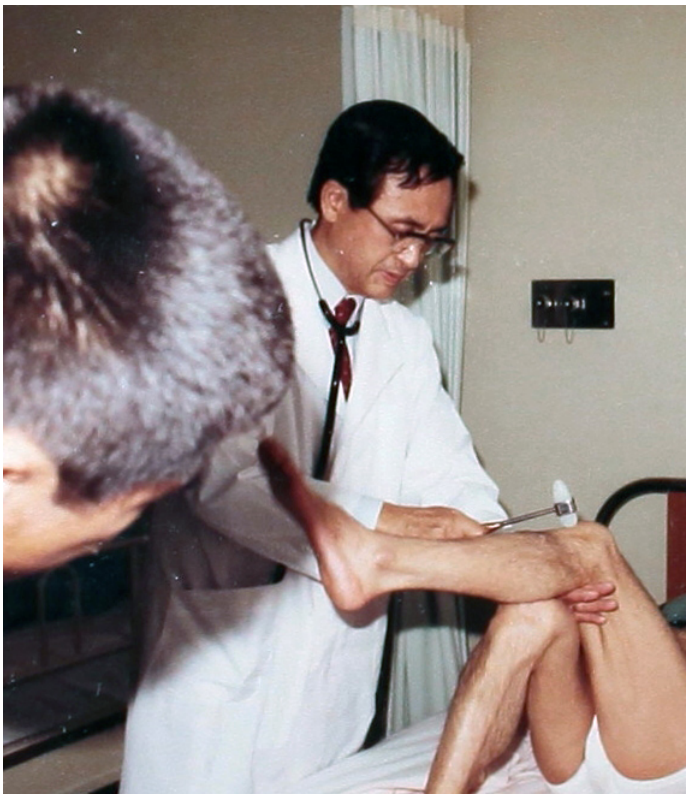
荒木先生時代の第三内科のスタッフ

1974 年～1984 年

1974 年（昭和 49 年）6 月 7 日
　宮崎医科大学　開学
　医師の地域的偏在の是正、地域医療水準の向上を目的とした一県一医大構想政策のもとに開学

1977 年（昭和 52 年）4 月 18 日
　宮崎医科大学第３内科開設および内科学第３講座開講
　開講時に荒木淑郎教授、湯地重壬助教授、岡本定昭助手　着任

1977 年（昭和 52 年）10 月 31 日
　宮崎医科大学附属病院開院



荒木先生の診察風景

＜在籍者＞
1977 年　荒木淑郎、湯地重壬、岡本定昭、栗原照幸、栗林忠信、長嶺元久、加藤栄一
1978 年　俵　哲、鶴田和仁
1979 年　田中政幸、山村善教、年森啓隆、山中信和、早川美紀子、矢崎一雄
1980 年　中里雅光、櫻井（野手）とし子、佐藤　宏
1981 年　宇山英一郎、近藤　晃、塩屋敬一、池川眞一

1982 年（昭和 57 年）4 月

荒木淑郎教授熊本大学第 1 内科に転任

『臨床の教室において優れた研究者が育つためには 5 年という歳月は短く、本小雑誌は新設医大で、各人が精一杯頑張ったという努力のあとを示すのみであり…』

（荒木淑郎教授在任 5 周年記念研究業績目録序文から）

山中信和、佐藤　宏、宇山英一郎、池川眞一医員が　荒木教授とともに熊本大学第 1 内科に転出。

1982 年（昭和 57 年）4 月～1985 年（昭和 60 年）1 月

第 3 内科教授　空席

1982 年～1984 年

この期間、栗原照幸助教授、栗林忠信講師が中心となり、教室を支える。教授不在にもかかわらず多数の入局者を迎える。関連病院として宮崎市郡医師会病院が加わる。

教授不在時の栗原先生と三内科スタッフ

＜新入医局員＞

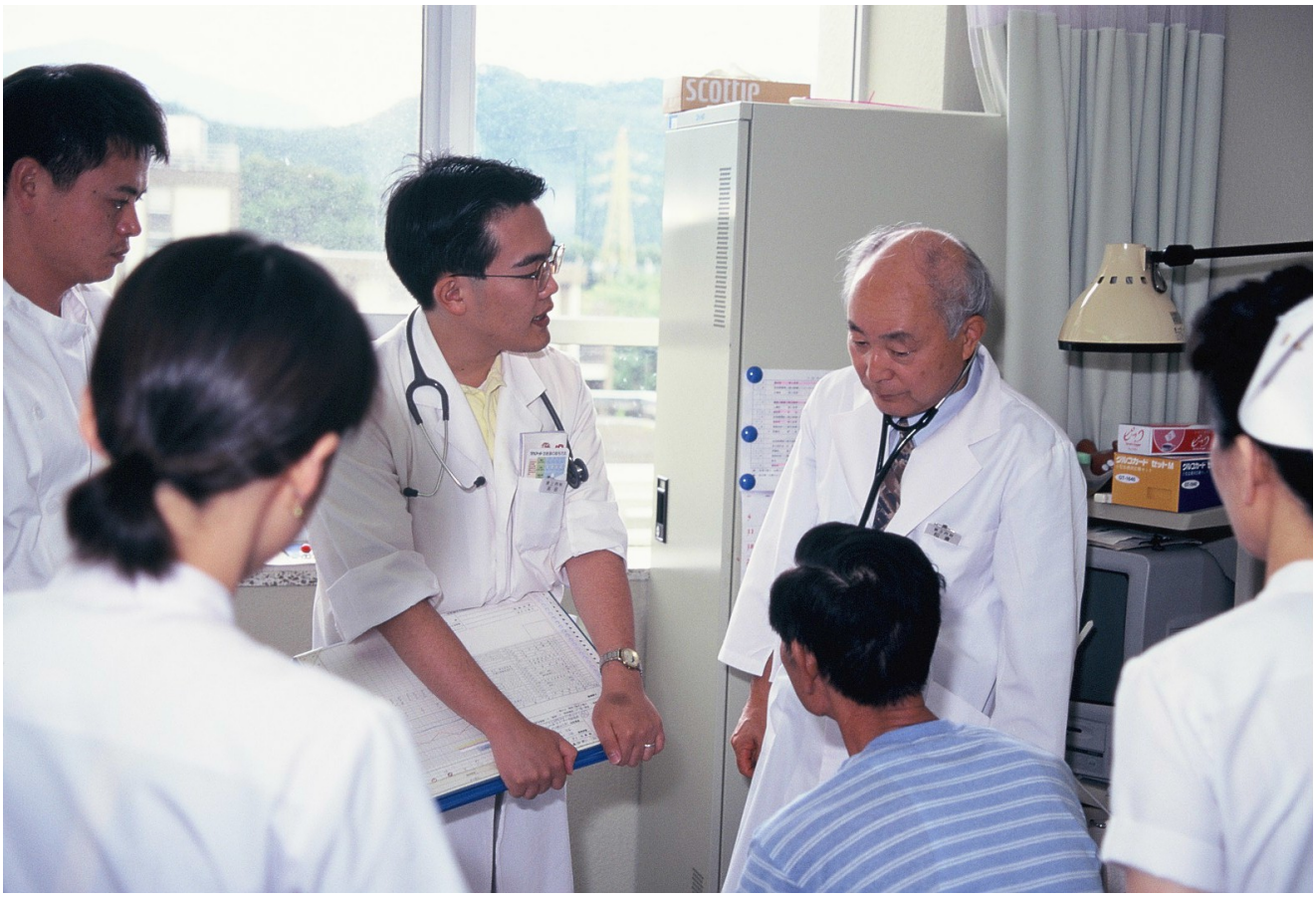
1982 年　油屋（浅井）順子

1983 年　上田修三、光川知宏、杉本精一郎、西園（時山）史子、石川（藤岡）恵美

1984 年　岸　雅彦、山下秀一、中津留邦展、矢野隆郎

1985 年～1991 年

松倉 茂教授、京都大学附属病院病態栄養部助教授から着任。待望の教授着任であった。大郷勝三講師（後助教授）、武村次郎助手（後講師）、大井長和講師（後助教授）、片上秀喜助手（後講師）着任。また呼吸器部門新設に伴い長崎大学第２内科 原 耕平教授のもとより道津安正助手が着任。これで現在の神経内科・呼吸器・内分泌・代謝の四部門体制が整った。



松倉先生の回診風景

一方、栗原照幸助教授（東邦大学教授）、大郷勝三助教授（小倉記念病院主任内科部長）、栗林忠信講師（古賀総合病院副院長）、山村善教助手（潤和会記念病院内科部長）、鶴田和仁助手（古賀総合病院神経内科部長）、長嶺元久助手（古賀総合病院内科部長）、塩屋敬一助手（国立療養所日南病院内科医長）、油屋順子助手（大阪北逓信病院内科）が各々転出。第３内科創設期からの多くの人が転出され、それぞれの新しい職場で活躍されることとなった。

1985 年（昭和 60 年）2 月
　松倉　茂教授　着任

1990 年（平成 2 年）4 月
　呼吸器部門開設

＜新入医局員＞
1985年　稲津（森山）明美、林田小枝子
1986年　宮下哲朗、伊井敏彦、榎木誠一、塩見一剛、杉本晶子、中村禎志、花岡保雄、
　　日高博之、成田（真下）理恵、宮崎博子、宮里幹也、北村純一
1987 年　後田義彦、水田雅也、斉田（武田）和子、筒井（田中）由香、篠崎　紫、貴島佳世
1988 年　土居（原田）芳枝、荒井（宮内）恵子、山口秀樹
1989 年　芦谷淳一、田代博史、宮永省三
1991 年　矢澤省吾、谷口治子、米川忠人、菱山（牧）妃佐子

＜着任＞
1985 年　松倉　茂
　　大郷勝三
1986 年　武村次郎
1987 年　大井長和
1988 年　片上秀喜
1989 年　道津安正

＜転出＞
1985年　栗原照幸（東邦大学）
　　栗林忠信（古賀総合病院）
1986年　山村善教（潤和会記念病院）
　　長嶺元久（古賀総合病院）
　　田中政幸（久峰温泉病院）
1987年　鶴田和仁（古賀総合病院）
1990年　油屋順子（大阪北逓信病院）
1991年　大郷勝三（小倉記念病院）
　　塩屋敬一（国立療養所日南病院）

1992 年～2002 年

宮崎大学第三内科開講 15 周年記念式典

1992 年（平成 4 年）

石川恵美先生が助手辞職後、県立宮崎病院へ赴任（平成 9 年 10 月退局）。

1993 年（平成 5 年）

道津安正先生に代わり、迎　寛先生が長崎大学第２内科より助手着任。大学院 1 年生の水田雅也先生が千葉大学医学部高次機能制御研究センター発達生理分野へ国内留学。

1994 年（平成 6 年）

坂本　晃先生に代わり、増本英男先生が長崎大学第２内科より、黒瀬　健先生が京都大学医学部病態栄養部より助手着任。また、中津留邦展先生が助手辞職後、善仁会市民の森病院内科部長として赴任（同年 12 月退局）。

1995 年（平成 7 年）

研修医 2 年目の満田和子先生が、長崎大学第２内科へ入局。呼吸器内科研修のため谷口治子先生が長崎大学第２内科へ医員として出向。

1996 年（平成 8 年）

当大学放射線科研修医　小川友裕先生が放射線科を退局後、入局。

塩見一剛先生が第 9 回日本内科学会奨励賞を「呼吸器疾患における Defensin の生体防御作用および組織障害に関する生化学的研究」で受賞。内科学会全体で全国でわずか６名という厳しい選考の中からの受賞であった。

屋久島へ医局旅行　千尋の滝にて

1997 年（平成 9 年）

増本英男先生に代わり、加藤茂樹先生が長崎大学第２内科より助手着任、花岡保雄先生が助手辞職後、市民の森病院へ赴任（同年 3 月退局）。

宮里幹也先生が第 10 回日本内科学会で奨励賞「新たな水・電解質調節ペプチドとしての guanylin family peptides」で受賞。

1998 年（平成 10 年）

荒井恵子先生が、潤和会記念病院へ。日高博之先生が、古賀総合病院へ赴任。独協大学麻酔科より野間健之先生（卒後５年目）が入局。

賛助会を開設し、２４施設が入会した。

山口秀樹先生は第 1 回日本心血管内分泌代謝若手研究奨励賞「高張食塩水負荷時のヒトおよびラットにおける uroguanylin 分泌動態の検討」で受賞。

平成１０年度　宮崎医科大学第三内科学教室同門会　　平成１０年１０月３１日　於 宮崎観光ホテル

1999 年（平成 11 年）

後田義彦先生が、延岡市医師会病院内分泌代謝医長として赴任、熊本大学代謝内科より阿南敬親先生が入局。山口秀樹先生が米国ベイラー大学へ留学（～2001 年 9 月）、田代博史先生が九州大学大学院（脳研神経病理）修了後、米国ジョンス・ホプキンス大学へ留学。

片上秀喜先生が第 10 回臨床内分泌代謝 Update 優秀演題賞「下垂体：新しい下垂体転写因子 Prop-1 異常症の同定と機能解析」で受賞。

2000 年（平成 12 年）

松倉　茂教授着任 15 周年目。黒瀬　健先生が、京都大学臨床生体制御医学講座助手として赴任。斉田和子先生が豪州メルボルン大学へ留学（～2002 年 8 月）。

中里雅光先生が日本肥満学会賞を「新規摂食調節ペプチドの発見と作用」で受賞。平塚雄聡先生が日本内科学会奨励賞を「抗菌ペプチドβdefensin の細菌感染防御に関する研究」で受賞。

2001 年（平成 13 年）

迎　寛先生が長崎大学第２内科助手に赴任。代わりに阿部　航先生が助手着任。

伊達　紫先生が日本内科学会奨励賞「トランスサイレチン変異による心アミロイドーシスの遺伝子解析と臨床像の特徴」で受賞。

松倉茂先生　退官記念講演会

2002 年（平成 14 年）

松倉　茂先生が定年退官後、岸和田市民病院病院長に就任。阿部　航先生が、長崎市民病院へ赴任。塩見一剛先生が、米国ノースウェスタン大学へ留学。

中里雅光先生が日本老年医学会優秀論文賞「トランスサイレチン遺伝子変異による高齢発症のアミロイドーシス」で受賞、芦谷淳一先生とともに塩田賞（国立医療学会機関誌優秀論文賞）を「活動性肺結核症における血漿・気管支肺胞洗浄中 HNP（ヒト好中球ペプチドに関する臨床的検討」で受賞。

塩見先生　米国への留学前の送別会にて

＜新入医局員＞
1992 年　島田五美
1993 年　飯干宏俊、上野浩晶、床島真紀、松本　亮、松元信弘、平塚雄聡
1994 年　満田和子、佐野（脇坂）ありさ、長池（山口）涼子
1995 年　椎屋智美、末藤（藤元）美星
1996 年　小川友裕
1997 年　野村（上谷）かおり、齋藤（上谷）幸枝、佐々木真弓、前田修司、京樂由佳
1998 年　野間健之
1999 年　有村保次、岩切優美、柳　重久、阿南敬親
2000 年　今津善史、川端國旦、京樂　格、小玉剛士、高嶋伸幹、福山　税、三好かほり
2002 年　土持若葉、村山真也、村原貴史

＜歴代の長崎大学第２内科から派遣された先生方＞
1990 年（平成 2 年）　4 月～1993 年（平成 5 年）　3 月　道津安正
1992 年（平成 4 年）　6 月～1994 年（平成 6 年）　6 月　坂本　晃
1993 年（平成 5 年）　4 月～2001 年（平成 13 年）3 月　迎　　寛
1994 年（平成 6 年）　7 月～1996 年（平成 8 年）12 月　増本英男
1997 年（平成 9 年）　1 月～2004 年（平成 16 年）3 月　加藤茂樹
2001 年（平成 13 年）4 月～2002 年（平成 14 年）3 月　阿部　航
＜長崎大学第２内科からのローテーター（医員）＞
1996 年（平成 8 年）　6 月～1996 年（平成 8 年）9 月　石井　寛
1996 年（平成 8 年）10 月～1997 年（平成 9 年）1 月　永田十和子
1997 年（平成 9 年）　2 月～1997 年（平成 9 年）5 月　河津多代
1997 年（平成 9 年）　6 月～1997 年（平成 9 年）9 月　西山　仁

＜着任＞
1992 年　坂本　晃
1993 年　迎　　寛
1994 年　増本英男
　　黒瀬　健
1997 年　加藤茂樹
2001 年　阿部　航

＜転出＞
1992年　石川恵美　（県立宮崎病院）
　　林田小枝子（林田眼科）、宮下哲朗（宮下クリニック）
　　光川知宏　（潤和会記念病院）
1993 年　道津安正　（長崎大学第２内科）
1994 年　武村次郎　（小倉記念病院）
　　坂本　晃　（長崎大学第２内科）
　　中津留邦展（市民の森病院）
1995 年　満田和子（長崎大学第２内科）、西園史子（にしぞの内科）
1996 年　年森啓隆（古賀病院）

1997 年　増本英男（長崎大学第２内科）
　　花岡保雄（市民の森病院）
1998 年　荒井（宮内）恵子（潤和会記念病院）
　　日高博之（古賀総合病院）
1999 年　後田義彦（延岡市医師会病院）
2000 年　黒瀬　健（京都大学臨床生体制御医学講座）、成田理恵（理恵内科クリニック）
　　小川友裕（日本医大第１内科）
2001 年　迎　　寛（長崎大学第２内科）
2002 年　松倉　茂（岸和田市民病院）
　　阿部　航（長崎大学第２内科）
　　谷口治子（札幌医科大学第３内科）

2003 年～2007 年

2003 年 9 月に中里雅光先生が第３代目の教授に就任した。本学卒業生最初の臨床部門の教授誕生であった。

『中里先生は宮崎医科大学の第一期生で、卒業後、初代荒木教授を慕って第三内科に入局してきました。内科研修の後、第二生化学教室松尾壽之教授（前宮崎医科大学学長）に師事し、多くの世界的な研究を成し遂げられました。』

（2003 年同門会誌　栗林先生の「中里先生、教授就任を祝う」より抜粋）

2003 年（平成 15 年）

岸　雅彦先生が東邦大学より、国立病院機構宮崎東病院へ赴任。柳　重久先生が京都大学病理部へ国内留学。3 月に宮永省三先生が「宮永内科クリニック」開業。

2004 年（平成 16 年）

大井長和先生が、兵庫県立塚口病院神経内科部長として、加藤茂樹先生が、香川大学医学部細胞制御医学客員教授として、川端國旦先生が、作東町国民健康保険作東診療所・老人保険センター所長として赴任。川越富夫先生（卒後３年）が鹿児島大学医学部第２内科より入局。

市民健康講座“生活習慣病を防ごう”を発足し、第１回目を延岡市、第２回目を日南市、第 3 回目を宮崎市にて開催し、多くの市民に向けて生活習慣病予防について講演する。

医局員を対象に火曜午後に講義を賜る「EXPERT LECTURE」が始まる。

栗林忠信先生、鶴田和仁先生、塩屋敬一先生、岸　雅彦先生、山下秀一先生、伊井敏彦先生、湊　誠一郎先生（県立宮崎病院　神経内科医長）が臨床教授に就任。斉田和子先生と、阿南敬親先生が臨床助教授に就任。

中里雅光先生が第 4 回野口賞（野口顕影会）「ペプチドームを活用した新規ペプチドの探索と実用化」で受賞、伊達　紫先生が第 20 回川上賞（日本神経内分泌学会賞）「摂食調節系における末梢と中枢の神経連関に関する研究」で受賞、松元信弘先生が RTI young Investigators Award「循環式温泉入浴施設を感染源としたレジオネラ肺炎の画像所見解析」で受賞。また、同門会に第３内科臨床報告優秀賞を発足し、第１回は床島真紀先生が受賞。

2005 年（平成 17 年）

塩見一剛先生が講師に昇任。佐々木真弓先生が京都大学糖尿病・栄養内科学講座へ、柳　重久先生が秋田大学医学部分子医科学講座へ国内留学。中津留邦展先生と年森啓隆先生が臨床教授に就任。

第４回目の市民健康講座“生活習慣病を防ごう”を都城市にて開催。

中里雅光先生が第 41 回宮崎日日新聞賞科学賞「ペプチドの医学応用に関する研究」で受賞。この時の副賞は台風 14 号の災害義援金として日赤県支部に寄付。荒木淑郎先生が平成 17 年度秋の叙勲　瑞宝中綬賞を受賞。2005 年度第３内科臨床報告優秀賞は平塚雄聡先生が受賞。

10 月第 5 回日本内分泌学会九州地方会を九州大学にて主催した。

2006 年（平成 18 年）

2 月当教室が事務局をしている厚労省長寿科学研究班「ソマトポーズに対するグレリンの臨床応用と基盤的研究」班会議を宮崎市シーガイアにて開催した。

班会議での記念撮影

杉本精一郎先生が、国立病院機構宮崎東病院研究検査科部長として、片上秀喜先生が、帝京大学ちば総合医療センター検査部部長として赴任。山下秀一先生が宮崎市郡医師会病院より講師着任。

「へき地診療を考える会」を発足し、美郷町西郷病院にて神経疾患および内分泌疾患検診を施行。また、第３内科・エーザイ主催で宮崎市にて市民を対象に「頭痛セミナー」を開催。松元信弘先生が第 40 回緑膿菌感染症研究会みのるメモリアル賞「慢性下気道感染症における気道被覆液中のβデフェンシンの検討」で受賞。伊達　紫先生が第 79 回日本内分泌学会奨励賞「グレリンの摂食調節機構におけるオレキシンニューロンの関与」で受賞。

宮崎大学医学部内科学講座　神経呼吸内分泌代謝学分野朱雀会総会　　平成18年12月9日　於 宮崎観光ホテル

中里雅光先生が財団法人宮崎銀行ふるさと振興基金第 24 回助成金を授与される。
塩屋敬一先生が国立病院機構宮崎東病院副院長に就任、伊達　紫先生が宮崎大学フロンティア科学実験総合センター生理活性物質探索分野教授就任。
この年 10 月に「魅力ある大学院教育イニシアティブ（ＧＰ）」に採択される。
発見から臨床展開まで実体験できる研究者育成プロジェクトを中里雅光先生、芦谷淳一先生が中心となり実施。この事業において芦谷淳一先生が医学部特任准教授となる。

青島カンファ

2007 年（平成 19 年）

中里雅光先生が独立行政法人技術振興機構（JST）の「育成教育：注射に代わる経鼻投与デバイスを用いた糖尿病と肥満に対するペプチド医薬品の開発」に採択される

高嶋伸幹先生が、福岡県飯塚病院へ赴任。宮里幹也先生が国立循環器病センター研究所　生化学部部長に就任。

開講 30 周年祝賀会を開催

＜新入医局員＞
2003 年　今井光一、松尾　崇、山下英一郎
2004 年　川越富夫
2006 年　白濱知広、坂元昭裕、長嶺和弘

＜着任＞
2006 年　山下秀一

＜転出＞
2003 年　宮永省三　（宮永内科クリニック）
2004 年　大井長和　（兵庫県立塚口病院神経内科）
　　加藤茂樹　（香川大学医学部細胞制御医学講座）
　　川端國旦　（作東町国民健康作東診療所老人保険センター）
2006 年　片上秀喜　（帝京大学ちば総合医療センター）
　　杉本精一郎（国立病院機構宮崎東病院）
2007 年　高嶋伸幹　（福岡県飯塚病院）
　　岸　雅彦　（東邦大学医療センター佐倉病院神経内科）

2008 年～2017 年

2008 年（平成 20 年）

福山税先生が海老原病院へ、榎木誠一先生が古賀総合病院へ赴任。川越富夫先生が古賀総合病院へ転職。松尾崇先生が自然科学研究機構生理学研究所へ国内留学。

4 月第 60 回呼吸器学会九州地方会を JA アズムで開催。

7 月柳重久助教が肺特異的 PTEN 欠損マウスにおける肺癌発生と肺線維症憎悪について発表し、日本臨床分子医学会学術奨励賞ならびに、欧州呼吸器国際会議での Cell&Molecular Biology Young Scientist Travel Award を受賞した。

10 月糖尿病九州地方会を会長　栗林忠信先生がシーガイアで開催。

2009 年（平成 21 年）

坪内拡伸先生と盛永裕太先生が入局、今井光一先生が救急部助教に採用、清山知憲先生が Beth Israel Medical Center Department of Medicine, residency Program(USA)より入局。

7 月西日本肥満研究会をシーガイアで開催。

9 月厚生科研長寿科学推進事業「高齢者医療と QOL 改善に対するグレリンの臨床応用とその基盤的研究」の班会議をシーガイアで開催。

11 月国際グレリンシンポジウムを東京国際フォーラムで開催。

2010 年（平成 22 年）

水田雅也先生が、潤和会記念病院糖尿病・代謝内科部長へ赴任。京樂由佳先生が、宮崎県福祉保健部健康増進課主幹へ。山口秀樹先生が講師へ昇任。郡山晴喜先生が入局。

１月老年病学会九州地方会の担当校となった。

2011 年（平成 23 年）

齋藤幸枝先生が潤和会記念病院ひむか苑へ赴任。柴田博絵先生が古賀総合病院より入局、坪内千佳子先生が入局。田口明子先生がハーバード大学医学部ボストン小児病院リサーチアソシエイトより講師として着任。

9 月第 195 回日本神経学会九州地方会を担当した。

柳 重久先生がアメリカ胸部学会国際会議において"Best of 2011" Achievement Award を受賞。三好かほり先生が第 51 回日本呼吸器学会学術講演会の The Japanese Respiratory Society International Session Award を受賞。

坂元昭裕先生と今井光一先生が東日本大震災支援のため、石巻赤十字病院へ 1 週間滞在した。

2012 年（平成 24 年）

望月仁志先生が福島県立医大神経内科より講師として着任。石井信之先生、谷口晶俊先生、清水浩一郎先生が入局。京樂　格先生が佐賀大学医学部総合診療部の講師として、三好かほり先生が牟田病院へ赴任。

2013 年（平成 25 年）

野間健之先生が平和台病院へ転職。海老原枝美先生、岩切由佳先生、松尾彩子先生が入局。第 40 回日本神経内分泌学会術総会を宮崎市で開催した。

中里雅光教授が「アミノ酸と脂肪酸のハイブリッドペプチドグレリンによるがんや消耗性疾患への新たな治療開発ならびにオクタン酸含有食品の食欲改善作用に関する研究」で杉田玄白賞を受賞。

柳　重久先生が第 53 回日本呼吸器学会学術講演会　Best Presentation Award を「上皮 Pten は肺胞上皮間統合性を調節することで急性肺損傷と肺線維化を制御する」で受賞。

伊井敏彦先生が第 26 回宮崎県医師会医学会賞を「当院における肺結核診療の現状」で受賞。

2014 年（平成 26 年）

迫田秀之先生が東京大学医学部より講師として着任、北村瑛子先生、酒井克也先生、土田真平先生、外山晶子先生、中里祐毅先生、中里浩子先生、野田智穂先生が入局。盛永裕太先生が千代田病院より介護老人保健施設愛里苑へ、柴田博絵先生が、湘南藤沢徳洲会病院へ移動。

上野浩晶先生が博慈会オープンセサミ賞を「新規の経鼻投与デバイスおよび GLP-1 製剤の開発と臨床応用」で受賞

柳　重久先生が日本呼吸器学会 学会奨励賞を「急性呼吸促迫症候群と肺線維症の病態機構における上皮細胞間統合性の役割に関する研究」で受賞

第 28 回日本糖尿病・肥満動物学会、第 35 回日本肥満学会の学会が宮崎市で開催された。

2015 年（平成 27 年）

杉山崇史先生、髙妻美由貴先生、重草貴文先生、原　善根先生が入局。張　維東先生が特任助教として採用。藤本かおり先生が退局。十枝内厚次講師が愛知県の至学館大学健康科学部教授に、田口明子准教授が愛知県の国立長寿医療研究センター統合加齢神経科学研究部 部長に栄転。

有村保次助教が本学の社会医学講座データマネジメント分野　准教授、南宮　哲研究員が国立ソウル大学のシニアリサーチャー、Abu Saleh MD.Moin 大学院生が UCLA、 Larry Hillblon Islet Research Center のポスドクと、若い人達が職位を得た。

中里雅光教授が日本内 第三代教授中里雅光先生の回診

坪内拡伸先生が日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会の学術奨励賞を「Ghrelin による肺腺癌悪液質の治療効果の検証」で受賞。

清水浩一郎先生が日本内分泌学会九州支部学術集会の優秀演題賞を「新規 KISS1 受容体変異（Pro147Leu）による思春期欠損症の機能解析」で受賞

上野浩晶先生が、日本糖尿病学会九州支部賞に決定した。

2016 年（平成 28 年）

小田康晴先生、鈴木あい先生、宇都加寿子先生が入局。椎屋智美先生が平和台病院へ赴任。中里祐毅先生が国立循環器病研究センター研究所へ国内留学し、同年の 10 月大阪大学大学院医学系研究科　分子神経科学へ移動。

中里雅光教授が日本糖尿病・肥満動物学会の米田賞を「摂食とエネルギー代謝調節に作動するペプチドの探索と機能解析に関する研究」で受賞。

坪内拡伸先生が Congress of Asian Pacific Society of Respirology APSR 2016 Grant を「Ghrelin attenuates lung cancer cachexia through mediating the expression of energy homeostasis related molecules」で受賞

＜新入医局員＞
2009 年　坪内拡伸、盛永裕太、清山知憲
2010 年　郡山晴喜
2011 年　柴田博絵、坪内千佳子
2012 年　望月仁志、石井信之、谷口晶俊、清水浩一郎
2013 年　海老原（石川）枝美、海老原（岩切）由佳、松尾彩子
2014 年　迫田秀之、北村瑛子、酒井克也、土田真平、外山晶子、中里浩子、中里祐毅、野田智穂
2015 年　杉山崇史、髙妻美由貴、重草貴文、原　善根
2016 年　小田康晴、宇都和寿子、鈴木あい
2017 年　瀬戸口健介、与那嶺真一、田中友梨

＜着任＞
2011 年　田口明子
2012 年　望月仁志
2014 年　迫田秀之

＜転出＞
2008 年　福山　税　（海老原病院）
　　榎木誠一　（古賀総合病院）
2009 年　矢澤省吾　（札幌医科大学神経科学講座）
2010 年　水田雅也　（潤和会記念病院）
　　京樂由佳　（宮崎県福祉保健部）
　　齋藤幸枝　（潤和会記念病院）
2012 年　山下秀一　（佐賀大学医学部総合診療部）

	京樂　格	（佐賀大学医学部総合診療部）
	三好かほり	（牟田病院）
2013 年	野間健之	（平和台病院）
2014 年	盛永裕太	（介護老人保健施設愛里苑）
	柴田博絵	（湘南藤沢徳洲会病院）
2015 年	藤本かおり	
2016 年	椎屋智美	（平和台病院）

＜主催学会＞

1978 年	6 月	第 62 回日本神経学会九州地方会	
1980 年	11 月	第 17 回日本糖尿病学会九州地方会	
1980 年	12 月	第 171 回日本内科学会九州地方会	
1985 年	5 月	第 189 回日本内科学会九州地方会	
1992 年	5 月	第 217 回日本内科学会九州地方会	
1992 年	12 月	第 120 回日本神経学会九州地方会	
1993 年	11 月	第 31 回日本糖尿病学会九州地方会	
1995 年	9 月	第 131 回日本神経学会九州地方会	
1997 年	3 月	第 7 回日本老年医学会九州地方会	
1998 年	3 月	第 141 回日本神経学会九州地方会	
1999 年	7 月	第 7 回西日本肥満研究会	
2000 年	12 月	第 152 回日本神経学会九州地方会	
2000 年	2 月	第 10 回日本間脳下垂体腫瘍学会	
2001 年	5 月	第 253 回日本内科学会九州地方会	
2003 年	9 月	第 163 回日本神経学会九州地方会	
2005 年	10 月	第 5 回日本内分泌学会九州地方会	
2006 年	9 月	第 175 回日本神経学会九州地方会	
2008 年	4 月	第 60 回日本呼吸器学会九州地方会	
2008 年	5 月	第 281 回日本内科学会九州地方会	
2008 年	7 月	第 16 回西日本肥満研究会	
2009 年	3 月	第 19 回日本老年医学会九州地方会	
2009 年	6 月	第 186 回日本神経学会九州地方会	
2011 年	9 月	第 195 回日本神経学会九州地方会	
2012 年	9 月	第 10 回肥満症サマーセミナー	
2013 年	10 月	第 40 回日本神経内分泌学会学術集会	
2014 年	2 月	第 28 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会	
2014 年	6 月	第 206 回日本神経学会九州地方会	
2014 年	10 月	第 35 回日本肥満学会	
2017 年	6 月	第 218 回日本神経学会九州地方会	開催予定
2017 年	10 月	第 55 回日本糖尿病学会九州地方会	開催予定
2018 年	4 月	第 91 回日本内分泌学会学術総会	開催予定